

4 学校教育計画

項 目	目標・方針及び計画	
1 学習活動	目標	・主体的、自発的に家庭学習に取り組む姿勢の育成に努める。 ・総合学科では生徒の進路目標の実現や個性、特性を伸ばできるように、科目選択の設定などカリキュラムの改善に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、生徒の思考を刺激しつつ意欲的・主体的に学習に取り組む態度を引き出す。
	計画	・各教科や学年と連携して、効果的で系統的な学習指導を図る。 ・多様な進路に応じた科目や総合学科特有の科目を配置し、科目選択の幅を広げることで、生徒個々の学習目標に沿ったものとする。 ・総合学科・看護科の実践的・体験的授業を通じ、育てたい資質能力として「思考力」「発信力」「実行力」の向上を図る。

項 目	目標・方針及び計画	
2 学校生活	目標	・社会規範や校則についての意識を高め、本校生徒としての誇りを持たせる。 ・集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる生徒を育てる。 ・交通安全や交通マナー、防犯・防災について関心を持たせるとともに、自分自身の安全について意識させる。 ・安全・安心で快適な学校生活を送るために、生徒自身が主体的に校内の環境美化に努めようとする意識と行動力を育てる。
	計画	・「さわやか運動」「交通安全指導」「制服着こなしセミナー」「自転車点検」の実施などを通して、規範意識やマナーの向上を図る。 ・学校全体で取り組む頭髪服装指導や遅刻調査、いじめ防止のための被害状況調査を実施し、生徒の些細な変化を早期に捉え、きめ細やかな生徒支援を行う。 ・「朝の活動」等、規律委員会の活動を支援しながら生徒一人ひとりが主体的に責任を持った行動ができるよう指導する。 ・防災避難訓練の実施や外部講師による安全に関する講演会を設定する。 ・各クラスで、「清掃当番は授業終了後速やかに清掃場所に移動する」よう指導する。 ・清掃指導者は、清掃の手順および清掃後の理想的な状態を、口頭あるいは掲示物などで具体的に示す。 ・生徒保健委員は、定期的に校内全体の清掃状況について点検を行う。

項 目	目標・方針及び計画	
3 進路支援	目標	・新課程が目指す主体的な学びによって、生徒一人ひとりが自分の価値基準を決めて、自己実現できるように支援する。 ・総合学科・看護科ともに学科の特性を生かした適切な進路ガイダンスを行う。
	計画	・面接を重視し生徒理解に努めるとともに、生徒との対話を通して個々の生徒に合った進路実現が達成できるように、多様な視点を持つ努力をする。 ・学年を通して基礎学力を定着させるとともに、進路実現に対応できる確実な能力を身につけるための支援を行う。

項 目	目標・方針及び計画	
4 特別活動	目標	・学校行事や部活動、ホームルーム活動等を通じて所属感や連帯感を深めさせるとともに、より主体的・実践的な態度を育成し心身の健全な発達を図る一助とする。 ・読書を通して、生徒の想像力と思考力を養い、人間形成の一助とする。 ・学校における情報センターとして教育課程に応じた資料を整備する。
	計画	・学校行事での生徒の活動内容を工夫し、係生徒や生徒会執行部がより主体的に運営できるよう支援する。 ・部活動の活性化やホームルーム活動の充実を図るとともに、生徒の研修会を通して協働性、責任感などの育成を図り、問題解決能力の向上を支援する。 ・「朝読書」を通じて読書意欲の向上を図り、主体的、自発的に学習に取り組む姿勢の育成に努める。 ・統一HR「読書の時間」で話し合いの場面を設定して、自らの考えを深め、多面的に物事を捉える力の向上を図る。 ・各行事や広報活動等の図書委員会の活動を通して図書館利用及び読書活動を支援、促進する。

項 目	目標・方針及び計画	
5 その他 看護科教育の充実	目標	・学習への意識付けを行い、看護に対する興味・関心を向上させながら看護師に必要な基礎的知識と技術の習得を図る。 ・看護に従事する者として「看護とは何か」を考え、自らの看護観を培うと共に、人間尊重の精神を育み、看護実践能力を養う。
	計画	・看護科目に偏ることなく全教科間の連携を図ると共に、視野の広い学力の定着と充実に努める。外部講師との連携を密にし、個別指導・少人数指導、教科と臨地実習との効果的な指導を通して望ましい看護師養成に努める。 ・人間尊重の精神を基本とし、規律・責任感・協調性を身につけ、円滑な人間関係を形成できるように指導する。 ・生徒の看護に対する興味関心が持続・向上するよう5年間の教科指導や看護の行事を工夫し、充実した学校生活が送れるよう指導する。 ・生徒の進路実現に向けた個別的な進路指導の充実を図る。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山いずみ高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	・<u>家庭学習習慣の確立</u> ・<u>思考、発信、実行のサイクルの定着</u>	
現 状	・総合学科では生徒の進路目標が多様であり、選択した科目に応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる。 ・進路や学習に対する目標が明確でない生徒は学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。 ・自ら考えて学習や行動につなげる態度・姿勢に欠ける。	
達成目標	①家庭学習の振り返りアンケートにおいて ・計画を立てて学習している ・課題やそれ以外の学習に取り組んでいる ・テストの見直しを行いその後の学習改善につなげているの各項目のポイント（10点満点）	②12月実施の（2回目）アンケート （いずみグラデュエーションポリシー） 「思考力」「発信力」「実行力」のスコア （満点5）※1回目との比較での差
	3つの項目の平均点6.0点以上／10点満点	「思考力」「発信力」「実行力」（全校平均）がそれぞれ0.3ポイント以上上昇する。
方 策	・担任等による面接指導を充実する。 ・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 ・小テストや考査の見直しを促し、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるようにする。	
	・総合学科～1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて様々な立場の人々と協働し、思考しながら課題に取り組む主体性や態度を育てる。 ・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力を育て、思考しながら現場の課題に取り組む主体性や態度を育てる。	

令和8年度 富山いずみ高等学校アクションプラン		
重点項目	②学校生活	
重点課題	・<u>集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成</u> ・<u>交通安全や防犯に関する意識の向上</u> ・<u>校内の環境美化に主体的に努める意識と態度の育成。</u>	
現 状	・スマホの校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や長時間使用し、学習や睡眠など生活に支障を来す生徒が一部存在する。 ・校外での通行マナー、乗車マナーで指摘を受けることがあった。 ・昨年度の自転車乗車中における交通事故は11件発生している。 ・「スマホを使用しながら」や「イヤホンを着しながら」登下校する生徒も一部見られる。 ・授業終了後の15分間が「清掃」時間であるが、今年度も工事のため、いくつかの区域で「集合が遅い」「時間内には終わるがしっかり掃除されていない」「きちんと清掃するのだが時間通りには終了しない」などの問題がある。また、今年度も年度途中で清掃区域分担の大幅な変更が予定されている。	

達成目標	①交通安全と校則やマナーに関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合 <u>90%以上</u> (1月実施マナー・規範意識アンケート)	②『清掃』に主体的に取り組み、時間内にきれいにすることができた」生徒の割合80%以上
方 策	・規律委員会主体による活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い、正しいネットの使用方法について考えさせる。 ・規律委員会(サイクルリーダー)による自転車の鍵掛け、ヘルメットの着用の呼びかけ等を通し防犯と安全意識の涵養を図る。 ・外部機関と連携し、安全教育に関する講演会を企画する。 ・生徒自身が学校生活の在り方について考え、自分たちの課題について主体的に取り組む態度を育てる。	・各クラスで、清掃当番は授業終了後速やかに清掃場所に移動するよう指導する。 ・清掃指導者は、清掃の手順および清掃後の理想的な状態を具体的に示す。 ・保健委員は、定期的に校内全体の清掃状況について点検を行う。 ・生徒の意識・行動の実態を把握するためのアンケート調査などを行う。

令和8年度 富山いずみ高等学校アクションプラン ― 3 ―		
重点項目	進路支援	
重点課題	・ <u>面接の充実</u> ・ <u>3年生への進路支援の充実</u>	
現 状	・自らの将来の人生を設計したり、自らの社会での役割を考えたりする意識が希薄であるため、進路や学習に対する目標が明確でない生徒が多い。 ・学習態度はまじめであるが受け身の傾向があり、家庭学習が習慣化していないために基礎学力が不足している生徒がみられる。 ・3年総合学科では、1, 2年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、推薦選抜等における小論文や面接指導など個々の適性に合った指導を充実させることが求められている。 ・大学入試制度改革への対応として、1年「産業社会と人間」、2年・3年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化することが望まれている。	
達成目標	面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために大いに役立った」と回答する生徒	年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒
	20%以上	平均60%以上
方 策	・進路希望調査、学習時間調査、進路学習の振り返り、学習の記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。 ・面接週間期間は生徒面談を優先するため、校時・行事について配慮する。 ・教科担当者との面談も必要に応じ設定する。	・一般選抜を含め、小論文指導、面接指導等志望進路に応じた指導体制の充実を図る。 ・生徒への情報提供の機会をタイムリーに作り、個々の適性に合った受験方式を探らせる。 ・生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。

重点項目	特別活動		
重点課題	・ <u>生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援</u> ・ <u>I G P を浸透させ、各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度の育成</u> ・ 「朝読書」を継続し、<u>主体的、自発的に学習に取り組む姿勢の育成に努める。</u> ・ 統一ホームルームで読書の面白さを味わう場を設定し、友人の読み方を知り、<u>自らの考えを深め、多面的に物事を捉える力の向上を図る。</u> ・ 「LIBRARY」の発行や企画展の実施、<u>図書委員会の活動を充実させ、幅広い読書を推進する環境づくりに努める。</u>		
現 状	・ 各学校行事に対する充実感が高い一方、関わり方が偏った生徒だけになることが多い。 生徒一人ひとりが主役であることを意識させると共に全員が企画運営に携わることで充実感を向上させたい。 ・ 部活動やホームルーム活動、委員会活動など、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多い。しかし、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる時がある。様々な事柄に対して、もっと積極的に仲間や教師と協働し取り組もうとする態度を育成したいと考えている。 ・ 多くの生徒は朝読書への切り替えと集中ができるが、上手くできない生徒もいる。朝読書が家庭での読書習慣になるところまでは繋がっていない現状であるが、少しでも読書をする機会を失わないようにさせたい。		
達成目標	① 各学校行事への取り組みに対する各自の充実感、達成感	② I G P を意識したホームルーム活動に積極的に取り組むことができたか。	③ 2学期末において朝読書、朝読書以外も含めて充実した読書ができたとする生徒の割合
	90%以上	80%	50%以上（1・2年生）
方 策	・ 事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。 ・ 生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、意見をより多くまた広く取り入れるための工夫を行う。	・ クラス目標を I G P 「傾聴力・想像力・思考力・発信力・協働力・実行力」の中から選ぶことに限定し、1年間取り組むようにする。リーダー研修会を活用し、より充実した取り組みになるようにする。	・ 読書履歴調査に各学期の読書に関する目標を周知し、落ち着いた雰囲気で一日を始める。 ・ 朝読書の時間は集中して読書に取り組み、各学期末に生徒が振り返る機会を設定する。 ・ 2学期末において充実した読書ができたと言えるよう各自が目的意識をもって読書に取り組むようにする。

重点項目	その他（看護科教育の充実）	
重点課題	・ <u>看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実</u> ・ <u>専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成</u>	
現 状	・ 学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。 ・ 看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。 ・ 卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。 ・ 看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。	
達成目標	①進路実現 看護師国家試験合格率・進路達成度	②看護科意識調査での満足度 専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」「学習面・進路面」の問いに「満足した・概ね満足した」と回答した生徒
	100%	90%以上
方 策	・ 国家試験対策として、教員セミナーに参加し、115 回国試問題の分析による指導方法の工夫を図る。 ・ 外部模試や実力テストの事後指導と共に早期に必修問	・ 看護職者としての自覚及び社会人基礎力、倫理観の育成や看護教科への興味関心を高める教科指導法や看護科行事を I G P を踏まえ実施する。また教員自身がロールモ

	題に取り組み強化していく。高校 1 年次から国試を意識した授業の実施と声かけを行う。 ・「解剖生理」「病理」の知識定着に向け、授業改善、評価方法の検討を継続していく。 ・高校 1 年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加との生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫すると共に、成績下位者への個別指導を行う。 ・年々早まる就職試験に向け、進路懇談会を 5 月、就職試験対策講座を 7 月に早めて実施する。専攻科 1 年からインターンシップ等の情報提供を行い進路希望に合わせた面接・小論文指導を計画的に行う。 ・大学編入者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握、校内での指導体制の強化を図る。	デルとしての姿勢をもち生徒の職業観の形成に繋げる。 ・看護科 IGP を達成できるよう、生徒個々に目標を立てさせ学期ごとに評価し成長と課題を確認する。また高校 1～3 年次の課題図書を通し、学びの共有の場を設け看護観及び IGP の力の育成を図る。 ・意識及び進路調査を分析し、生徒が抱える問題や悩みを把握し面接等の充実を図る。 ・シミュレーション教育を取り入れた演習の充実を図り、臨床判断能力の育成を図る。 ・合同 HR 等のピアサポート活用による異学年間交流の充実と学び合いにより自己効力感の向上を図る。 ・臨地実習での振り返りを行い、自己の成長と課題を明確にし、課題解決能力に繋げる。
--	--	--